

令和 7 年度 静岡市協働パイロット事業

「きみの居場所プロジェクト」  
～きみの話し相手になり隊～

事業報告書



静岡の未来を拓く会

## 1 事業概要

### (1)実施期間

令和7年7月1日から令和8年3月31日

### (2)協働相手先(市の協働事業担当課)

- ・市民局市民自治推進課
- ・教育委員会教育局教育総務課
- ・教育委員会教育局学校教育課

### (3)事業内容

#### ①「放課後子ども教室」での活動

小学生が高校生との遊びや会話を通して、安心して自己開示できる場を設ける。

ア 内 容 放課後子ども教室における高校生ボランティアの派遣

イ 場 所 静岡市立城北小学校

ウ 時 期 令和7年7月～12月

エ 回 数 3回以上

オ 派遣人数 10名程度

カ 実施結果 活動の実施内容及び結果を取りまとめること。

#### ②「ふれあいイベント」の開催

遊びを中心としたふれあいイベントを開催し、小学生と高校生との交流を深める。

ア 場 所 事業担当課と協議の上、受託者が定める。

イ 時 期 令和8年1月～3月

ウ 回 数 1回

エ 対 象 市内小学生

オ 定 員 50名程度

カ 参加費 無料とする。

キ 結果分析 参加者へのアンケート調査等を通じ、実施結果を分析すること。

## 2 実施報告

### (1)「放課後子ども教室」での活動

#### ① 活動開始前

・方向性の確認と高校生の心構え・対応の仕方について(城北高校生・拓く会スタッフ)

・城北小放課後子ども教室事前視察・打合せ

(城北小学校・ゼブランドスタッフ・城北高校生・拓く会スタッフ・教育総務課)

・高校生企画会議…第1回放課後子どもイベント遊び内容

#### ②「第1回放課後子ども教室での活動」7月11日(金)15:00～

(城北高校生11名、城北小児童約60名1年生から5年生)

#### 【内容】

・児童を3つのグループに分け、高校生が考えてきた遊びを一緒に行い、交流した。

A班…ボール運びリレー B班…ドミノチャレンジ C班…ピニャータ作りをそれぞれ別の場所で

行った。高校生も3つのグループに分かれ遊びの説明をし、一緒に遊んだ。



【第1回実施後見えてきたこと】

- ・高校生が来てくれたという期待値が高い。
- ・楽しかった。子どもたちの笑顔をつくることができた。
- ・高校生1人に対して子ども6人は対応が難しかった。
- ・子どもと目線を合わせると話しやすい。
- ・自分たちから話しかけないと話し合いにならない。
- ・企画した遊びがメインとなってコミュニケーションが進まない。



以上、実施してみて高校生が感じたことであった。プロジェクトの目標を再確認し、第2回のイベントに活かしていくように内容や評価の方法を変えることにした。

③ 「第2回放課後子ども教室での活動」10月15日(水)14:00～高校生13名

【内容】

- ・室内遊びと外遊びに高校生が分かれ、子どもたちの遊びの中に入り活動した。



【第2回実施後見えてきたこと】

- ・小学生によるシール投票結果(投票71人)
- ・高校生と遊んだり話をしたりしてうれしかったよ…84.5%(60人)
- ・高校生と遊んだり話をしたりしたけどいつもと変わらなかったよ…5.6%(4人)
- ・高校生と遊んだり話をしたりできなかったよ…9.9%(7人)
- ・高校生のお兄さんお姉さんにまた来てほしい人…78.9%(56人)

ア スタッフによる小学生への聞き取り

- ・高校生が来てくれてよかったことは何か
    - 運動会の話ができた(54人)
    - 一緒に遊んだことが楽しかった(16人)
    - いつもより楽しかった(15人)
  - ・遊んだり話をしたりして気持ちに変化があったか
    - いつもより楽しくなった(11人)
    - 何でも話しやすく楽しく話ができた(4人)
    - うれしくなった(4人)
  - ・話すつもりはなかったけど話してしまったことはあるか
    - ゲームの話(3人)
    - 年齢を聞いた、ラブラブの話(2人)
- その他、時間が足りなかった、もっともっとお友達とお兄さん、お姉さんと遊びたかった。

#### イ 事後高校生ミーティング

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生の笑顔が増えた。</li> <li>・自然な会話が増えた。</li> <li>・高校生側の成長が見られた。</li> <li>・スタッフとの連携がスムーズにいった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関われる人数の偏りがある。</li> <li>・会話の深まり、悩み相談までいかなかった。</li> <li>・最初のつかみが弱い。</li> </ul>

以上のことから、高校生自身の子どもへの関わり方の変化が見られ、遊びの中で子どもの「やりたい」を引き出すことにつながっている。また第1回の高校生企画による遊びと比べると子どもサイドのフィールドでの活動(子どもの遊びの中に入っていく)の方が、子どもとの関わりが深くなっている。

ただ悩み事といった話には至っていない。本気で遊んでいく中で、子どもの思いを高校生が受け止めていけるよう次回(第3回)に活かしていく。

#### ④「第3回放課後子ども教室での活動」12月12日(金)14:00～

※高校生11名は授業のため15:00から参加

##### 【事前企画会での方向性と確認】

- ・子どもと遊び、会話などの交流をすることで得られる効果を意識して活動する。
- ・「遊びに主軸をおいて交流を行っていく～遊びながら話す 話しながら遊ぶ～」
- ・評価については第2回と同様の方法をとる。

##### 【当日内容】

- ・放課後こども教室(ゼブランド)の通常活動に高校生メンバーが入って交流した。



### 【第3回実施後見えてきたこと】

#### ア 小学生によるシール投票結果(投票40人)

- ・高校生と遊んだり話をしたりしてうれしかったよ…82.5%(33人)
- ・高校生と遊んだり話をしたりしたけどいつもと変わらなかったよ…2.5%(1人)
- ・高校生と遊んだり話をしたりできなかったよ…15.0%(6人)  
※アに関しては前回2回目とそう変わらない。
- ・高校生のお兄さんお姉さんにまた来てほしい人…90.0%(36人)  
※また来てほしいに関しては前回2回目より+11.1%アップ

#### イ スタッフによる小学生への聞き取り

- ・高校生が来てくれてよかったことは何か。  
一緒に遊べた(10人)  
おもしろい(3人)
- ・遊んだり話をしたりして気持ちに変化はあったか。  
うれしくなった、楽しくなった(20人)  
テンションが爆上がり(2人)
- ・高校生に伝えたいこと(第3回が最後なので)  
また来年も来てほしい、また遊びたい(17人)  
楽しかったよ、一緒に遊んでくれてありがとう(17人)



#### ウ 高校生による自己評価

- ・今回の活動を通して人と関わる大切さややりがいを強く感じました。小学生と接する中で自分の行動が相手の安心や笑顔につながることを実感できたため、今後は他のボランティア活動にも参加し、さらに多くの人と関わってみたいと思いました。
- ・最初は小学生と深い話ができるか不安でしたが、3回の活動をとおして、自分のことを覚えてくれて毎回話す子ができ距離が縮まったと感じました。こうやって時間をかけて深い話ができる関係になっていくんだなと思いました。
- ・子どもとうまくコミュニケーションをとる能力はゼブランドさん(スタッフ)たちのありがたい協力によって向上できたものだと思います。
- ・準備などで大変なことはたくさんありますが、やってみると楽しいという思いがとても大きいし、地域の学生として少しでも地域貢献をすることや未来のことを変えるきっかけになっているのではないのかなと思いました。

#### ① ゼブランド(放課後こども教室)スタッフアンケート

- ・子どもたちは、高校生と遊ぼうではなく、高校生と遊びたいという気持ちで参加していると思います。こども教室のスタッフがほぼ保護者世代なので、考え方や子どもに接する態度が大人の対応になってしまいます。子どもたちと年齢に近い世代の高校生のみなさんが、放課後の時間を一緒に過ごすことで、子どもに寄り添える存在になるのかなと思います。
- ・短時間でもふれあえた子どもたちに笑顔が増えたことはとてもよいことでした。普段にはないスピード感、会話、取り巻く空気感は高校生のみなさんだからこそもっているものです。
- ・2回目、3回目と続くにつれ一人一人の表情が豊かになり、子どもたちと遊んでいる姿は、スタ

ツフも笑顔にさせ、楽しさが目いっぱい伝わってきました。

以上、3回の「放課後こども教室活動」を経て、「遊びに主軸をおいて交流を行っていく～遊びながら話す 話しながら遊ぶ～」など子どもへの接し方、コミュニケーションのとり方について得られた経験を活かして「ふれあいイベント」につなげていく。

## (2)「2026市民フォーラム」

「きみの話し相手になり隊」活動報告を「静岡の未来を拓く会2026市民フォーラム」(2月21日)にて行い、「放課後こども教室活動」についての思いや今後の抱負を述べた。



市民フォーラムでの高校生の発表(グランシップにて)

## (3)「ふれあいイベント」

### ① 高校生による「ふれあいイベント」企画会(スタッフ参加)令和8年1月31日(土)

- ・「ふれあいイベント」のイメージづくり(活動内容、タイムスケジュール)
- ・参加児童の増員計画、高校生スタッフ募集について(チラシ作成配布)
- ・高校生サミットについて(ふれあいイベント後、参加した高校生同士でリフレクションや交流を行う)



高校生スタッフ募集チラシ



参加児童募集のチラシ

### ② 「ふれあいイベント」「高校生サミット」最終打合せ2月28日(土)

- ・「ふれあいイベント」に参加する高校生メンバー顔合わせ
- ・「ふれあいイベント」の目的とテーマ確認 テーマ「高校生と 遊ぼう！ 話そう！」
- ・研修1「アイスブレイク体験 KAPLA」
- ・研修2「ふれあいイベント」に向けて高校生に期待すること
- ・当日の進行計画(グループ分けなど)

### ③ 「ふれあいイベント」当日3月7日(土) 静岡市番町複合施設体育館及び隣接公園にて

小学生26名参加(市内9校から) 高校生27名参加(市内4校から)

- ・司会進行はすべて高校生

ア 自己紹介からアイスブレイク「KAPLA」で遊ぼう(8グループに分かれて)



KAPLA で遊んでいるところ、どのグループが高くなるかな

イ グループで遊ぼう(室内、外遊び)



室内遊び



外遊び

【ふれあいイベントから見てきたこと】

ア 参加した小学生による評価(シール投票)

- ・26名全員が高校生と遊んだりお話をしたりできて楽しかったよと回答(100%)

イ 参加した保護者アンケート

- ・はじめは子どもだけの参加に不安を持っていましたが、いざ参加して帰宅すると、また参加したいと騒ぐほど楽しかったようです。
- ・参加後の第一声が、「めちゃくちゃ楽しかった！」でした。兄弟の中では一番上の子で家ではいつも兄弟の面倒をみてくれていますが、今日は高校生のお兄さんお姉さんの胸を借りて思い切り遊べたようです。短時間でしたが濃密な時間が過ごせたようです。
- ・何が始まるのか不安だった子も最後は高校生と打ち解けて笑顔で一緒に遊んでいました。それができたのはあの場にいる全員が小学生に寄り添って声掛けをして行動してくれたからだと思います。いい意味で自分の感情に素直に動く元気な小学生に嫌な顔をせず、「よしっ！一緒にやってみよ！」という姿勢で最後までいてくれた高校生に感動してしまいました。
- ・今回の1回きりではなく、継続してまた同じお兄さんお姉さんに会える環境があることで、本当の意味での居場所になっていくことを期待します。

ウ 高校生のアンケート

- ・どのように声をかければ楽しんでもらえるかを考えながら関わるのが大切だと思いました。

・子どもらしい純粋な思考や発見など、今の自分にはない部分を持ち合わせているので、一緒に活動することで視野が広がると思います。新たな地域課題の発見や普段は関わりのない人たちとの交流など、地域の輪が広がっていると思います。高校生と子どもの関係性や、高校生と大人とのつながりなど、この活動は多くの人と人をつなげ、安心して生活できる地域をつくることにつながると思います。

・高校生にしかできない小学生との関わり方があることを実感したからです。そしてこの「きみの話し相手になり隊」の活動だけでなく、様々なことに高校生にしかできないものがあると思いました。高校生には高校生なりの価値観や考え方があり、大人ではなく高校生自身が働きかけることによって生まれるものがあると思います。

・固定観念にとらわれない新しい考えを。これは国際関係に興味のある私には大切な考えで、この活動で得られたものは大きいと思う。この活動で同世代でも多くの人と関わりができてすごい経験になっている。挑戦したいと思えるようになったのもこの活動がきっかけだったし、より地域のことに目を向けることができたのもこの活動のおかげだった。

参加した子どもの満足度100%、参加した高校生は自分自身の成長に気づいたり、自信を持ったりしたとの感想が見られた。

### 3 事業を通しての成果及び今後に向けて

#### 【成果】

(1) 高校生の存在は、小学生の子どもにとってお兄さん、お姉さん、友達のようにあり、一緒に遊ぶことによって、子どもが自由に遊ぶことが保証され、子どもの心が安定し、安心した居場所になった。遊びを通して子どもの話し相手になっていくことができた。

(2) 高校生自身の成長も見られ、どのような声のかけ方がいいのか、回を重ねるごとに子どもへの接し方に気づくことができた。また地域の子どものことや地域のスタッフと接したことで、自分が地域の一員として活動している嬉しさを感じることもできた。何よりも高校生自身が子どもに関わることの素晴らしさを感じることもできた。

#### 【今後に向けて】

(1) 「放課後子ども教室」での活動を実施する小学校・高校を拡大することによって、日常的に小学生と高校生が触れ合う機会を増やし、より深い関係性の中で「心の居場所づくり」を推進する。

(2) 「ふれあいイベント」を長期休業中などに複数回実施することによって、より多くの小学生に「人への信頼」を得る機会を提供するとともに、各高校間の取組の実績を共有化したり、未実施の高校の実施へのきっかけづくりの場としたりする。



高校生サミットの様子

